

えがおになーれ

■ ビーバンと えがおのたね ◆

みんな、ちきゅうのこえにみみをすましてみて。
ちきゅうはいまどんなきもち？

このおはなしのおわるころ
きっと、
みんなやさしいやさしいきもちになれます。
そしてみんながえがおになれることを
ねがって…。

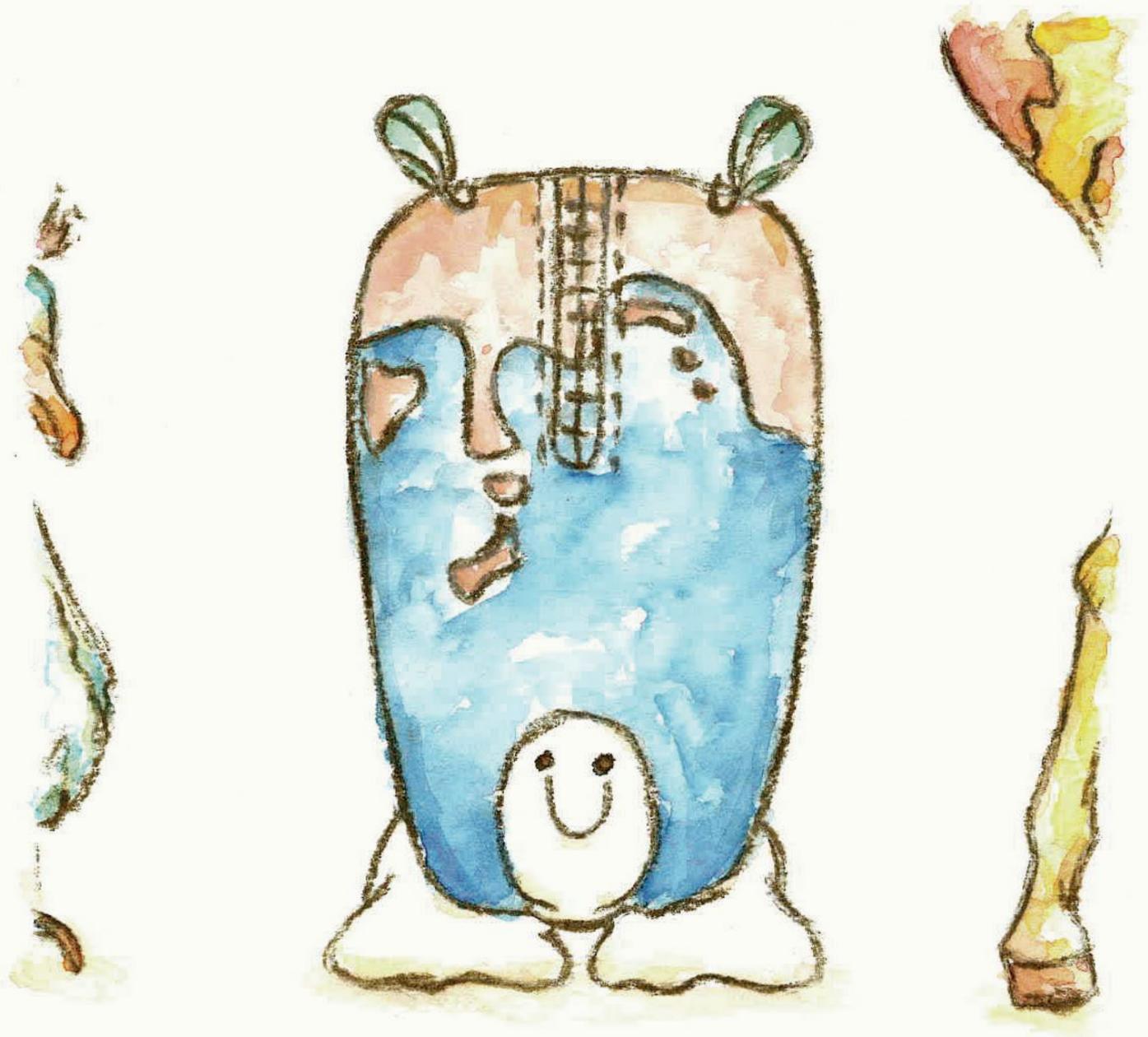
それでは、えほん
「えがおになーれ - ビーバンとえがおのたね -」
はじまり はじまり。



さく・え サンワード



ここは地球ちきゅうからとおーくとおーくはなれたカバクル星せい。
この星ほしのみんなはカバンとしぜんがだーいすき。
だからみんなたくさんのカバンかたちをもっているし、カバンの形かたちをした
おうちやお店みせまであるんです。
(この星ほしでカバンがうまれたなんてウワサもあるみたい…)
そして毎日、毎日、ユラユラ チッチと植物しょくぶつや動物どうぶつたちの歌声うたごえが
星中ほしじゅうにひびきわたりとってもにぎやかで楽しげです。

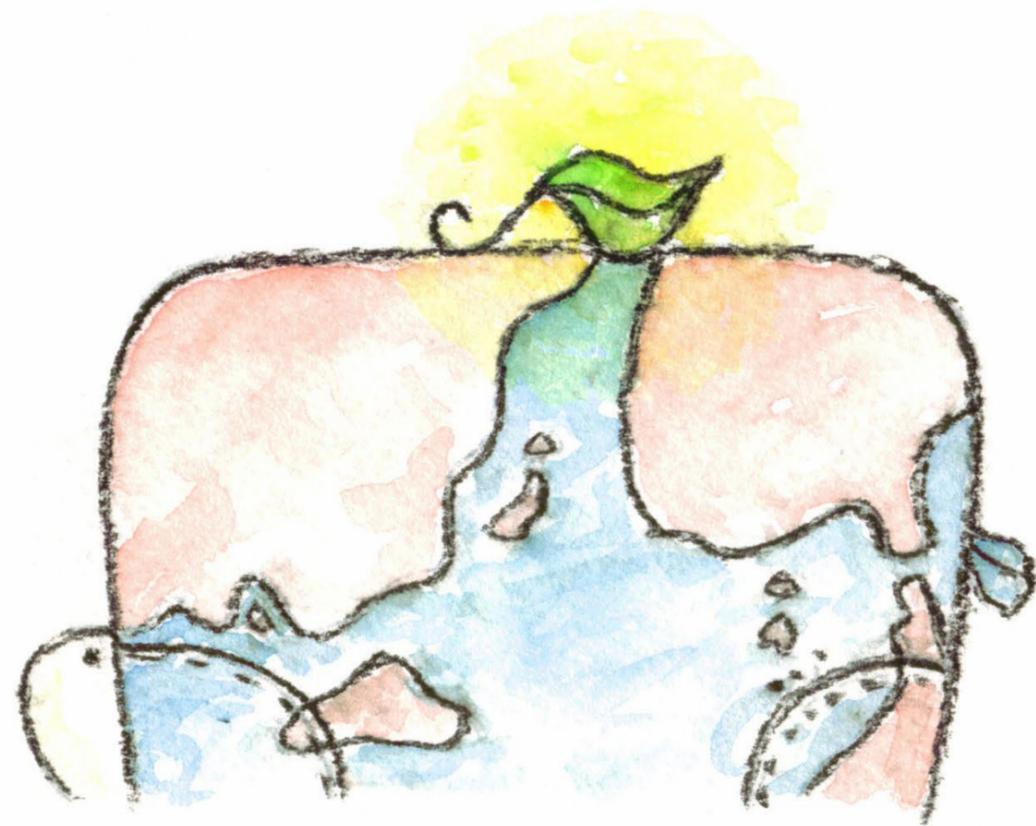


こんなカバクル星せいには、植物しょくぶつや動物どうぶつたちがこまっているとかならず助けたすに
きてくれるつよーい味方みかた、「しぜんレスキュー隊たい5(ファイブ)」があるんです。
「よーし！今日きょうも一番いちばん乗りだぞ！」
その中なかでもひとときわ元気な男おとこの子こがいます。名前なまえはビーバン。
ビーバンはせなかのはっぱでしぜんたちのSOSえすおーえすを感じるかんことができるんです。
そんなビーバンは、いつも大だいかつやく。
みんなはビーバンをとってもたよりにしています。

「さあ、今日もみんなにあいさつをしに出かけよう。」
おひさまニコニコ。とってもいい天気です。
ビーバンは元気に鼻歌を歌いながら、おひさまの光がたーくさん
ふりそそぐ道をてくてくてくと歩いていきます。
すると、木の上からことりさんのすてきな歌声が聞こえてきました。

「ことりさん、おはよう。ごきげんいかが？」

「おはよう、ビーバン。今日はやさしい風さんたちに運ばれてやってきた
お花さんのあまーいかおりで目をさましたの。今とっても幸せな気分だわ！」



そう言ってことりさんはまたピーチッチと楽しそうに歌い始めました。
その歌を聞いてビーバンもとっても幸せな気分になっていたその時です。
せなかのはっぱがピカピカピカ。地球からのSOSです。

「ぼく、地球を助けに行かなくっちゃ！」

ビーバンは急いでうちゅう船乗り場へ向かいました。

「ビーバン、行ってらっしゃい。気をつけてね。」

ことりさんはバタバタと大きく羽を羽ばたかせ、ビーバンをお見送り
しました。



うちゅう船乗り場^{せんのば}にとう着^{ちやく}したビーバンがうちゅう船^{せんの}に乗りこむ
じゅんびをしていると、星中^{ほしじゅう}のみんながたーくさんお見送り^{みおく}りにきて
くれました。

「地球^{ちきゅう}への道^{みち}のりは長い^{なが}から気^きをつけて行く^いんだよ。」

「地球^{ちきゅう}の力^{ちから}になってあげてね。」

「ビーバンの元^{げん}気をわけてあげて！」

みんな口^{くち}ぐちにビーバンに言葉^{ことば}をかけます。

それを聞いたビーバンはさらにやる気^きマンマン。

「ぼく、かならず地球^{ちきゅう}をえがおにしてくるね！いってきまーす！」

そう言^いって、ビーバンは元^{げん}気よく地球^{ちきゅう}へと旅^{たび}立ちました。



ひろーい、ひろーい うちゅう。
ながーい、ながーい 地球^{ちきゅう}への旅^{たび}。

ビーバンはたくさん^{ほし}の星たちをとびこえて、
ついに地球^{ちきゅう}にとう着^{ちやく}しました。

ビーバンはうちゅう船^{せん}からおり、一度ぐーんと^{いちど}のびをしました。
そしてふと足^{あし}もとに目^めをやると、そこには小さなか^{ちい}わい
お花^{はな}さんがちょこんと立^たっていました。
よく見^みると、お花^{はな}さんはなんだか^{かな}とっても悲^{かな}しそう。
ビーバンは心配^{しんぱい}になりた^たずねました。
「お花^{はな}さん、どうしてそんな^{かな}に悲^{かな}しい顔^{かお}をしているの？」



するとお花^{はな}さんは大き^{おお}なため息^{いき}をつき、こう言^いいました。
「地球^{ちきゅう}がど^どんあ^あた^たか^かな^なって植^{しょくぶつ}物^{ぶつ}や動^{どうぶつ}物^{ぶつ}た^たちの住^すむ場^ば所^{しょ}が
へり、み^みん^んだ^だん^んど^どん元^{げん}気^きがな^なくな^{くな}っているの。このま^まま^まじ^じゃ
たいへ^へん^んなこ^ことにな^なっ^っち^ちや^やう^うわ。」
それ^{それ}を聞^きいたビーバンはび^びっ^っくり！
「地球^{ちきゅう}から^{から}のSOSはこ^このこ^ことだ^だった^たんだ！でもみ^みん^んな^なのた^ために
ぼく^{ぼく}がで^できるこ^こと^とってな^なん^んだ^だら^らう？」
ビーバンはし^しぜん^{ぜん}た^たち^ちのた^ために^にで^できるこ^こと^とをさ^さが^がし^しに^に出^でか^かけ^けました。





しぜんたちのためにできることを考えながら歩いていると、
ポンッと足になにかが当たりました。
「これはなんだろう？見たことないなあ。」
拾い上げて見てみると、それはすーっとすき通っていて、
お日さまの光をあびるとぴかぴか光ります。
そのふしぎなものに見とれていると、後ろからキャキャッと
元気な声が聞こえてきました。

後ろをふり返るとそこには、切かぶの上にはちょこんとすわった
やんちゃなふたごのねずみ、リールとサックがいました。
「やあ、ねずみさん。とってもふしぎなものを拾ったんだ。
これは、なーに？」
「それはペットボトルっていうんだよ。地球にはペットボトルが
たくさんあるんだ。みんなポイッとしちゃうものなんだよ。」
「ペットボトルはゴミになっているんだね…。
それなら、ペットボトルをしぜんたちのために使うことはでき
ないのかなあ？」
そう思い、ビーバンはペットボトルをたくさん集めてみるこ
とにしました。





あっちの道。こっちの道。いろんなところに行き、
ビーバンはたくさんのペットボトルを集めました。
それを大きなはっぱで作ったカゴに入れ、
トロン トロンと歩いていると、遠くに工場が見え
てきました。そこにはひとりのおじさんがせっせと
はたらいています。



ビーバンはおじさんに集めてきたペットボトルを見せました。
「おじさん、おじさん。ペットボトルをしぜんたちのために役に
立てることができないかなあ？」
おじさんはにっこりわらって教えてくれました。
「できるとも！ペットボトルはちがうものにへんしんできるんだ。
生地になることもできるんだよ。」
「じゃあ…カバンになることもできる？」
「もちろんさ！」
ビーバンはとってもうれしくなりました。
「おじさんが生地を作ってあげよう。きっとすてきなカバンが
できあがるよ。」

さっそく、おじさんとビーバンのカバン作りが始まりました。



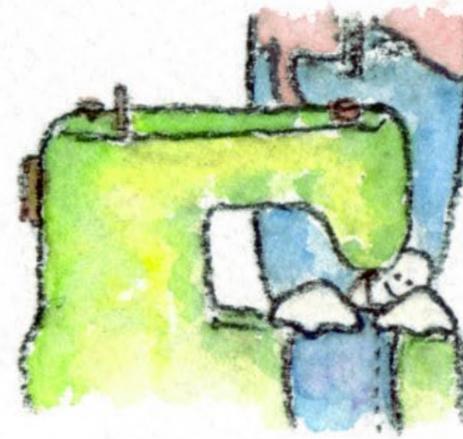
♪はじめにペットボトルをつぶし
まんまるなつぶにして

まんまるなつぶをもっともっと
細かくするとワタになるよ♪

♪ふわふわワタを
細く引っぱって
くるくるまいたら糸になる



その糸をカタカタおったら
はい、生地のできあがり♪

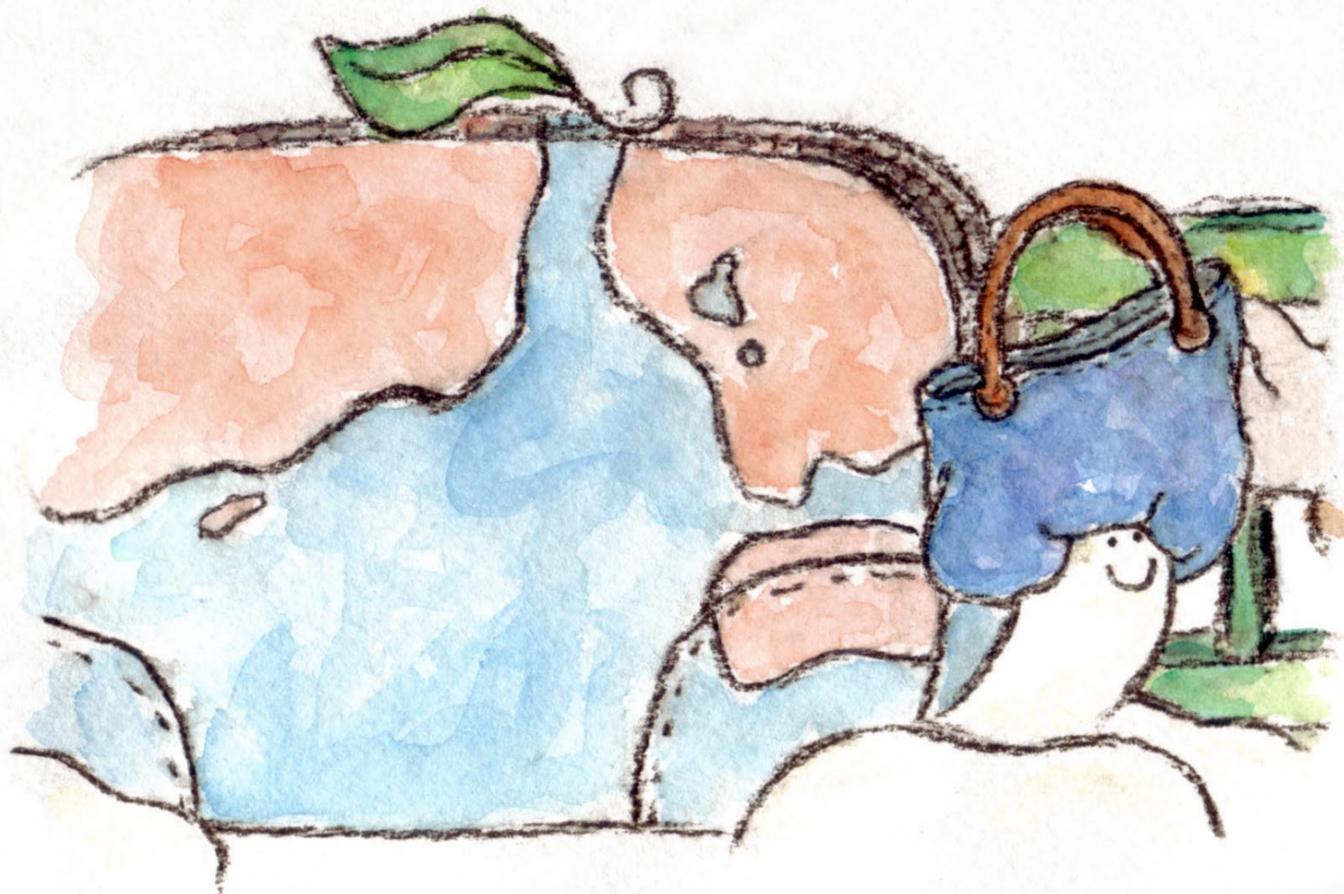


♪カタカタカタ
すてきなカバン できあがれ
カタカタカタ
しぜんのみんな えがおになーれ♪



そしてついにカバンができあがりました。
「うん！すてき！」
ビーバンはとっても気に入りました。
「おじさん、ありがとう！」
ビーバンはおじさんとおわかれをして、じまんげに首からカバンを
ぶら下げ出かけました。

ビーバンがルンルン気分きぶんで歩あるいていると、イスにこしかけてひなたぼっこを
しているやさしそうなあばあさんを見つめました。
「おばあさん、こんにちは。ぼくはビーバン。」
ビーバンが元気げんきよくあいさつをするとおばあさんは、
「こんにちは、ビーバン。とってもいいカバンをもっているわね。」
と言ってにっこりほほえみしました。



うれしくなったビーバンはおばあさんにカバンかばんを見せ、こう話はなしました。
「ぼくがつくったんだよ。とってもき気に入ったからこのカバンかばんに名前なまえをつけ
たいんだけど、なにかいい名前なまえはないかなあ。」
おばあさんは少しすこかんがえ、こういいいました。
「そうだねえ。とてもきれいなカバンだから… “らうらうじ” がいいん
じゃないかい？」
「らうらうじ？ どういう意味いみなの？」
ビーバンが首くびをかしげたずねると、おばあさんはやさしくおし教えてくれました。



「“らうらうじ” とい言うのはね、日本にほんの昔むかしの言葉ことばで上品じょうひん・美うつくしいという
意味いみなんだよ。」
それを聞いたビーバンはおお大よろこび！
「なんてすてきな言葉ことばなんだろう！ このカバンかばんの名前なまえにぴったりだ！」
うれしくなったビーバンはおばあさんにカバンをプレゼントすることに
しました。
「ありがとう。大切たいせつにつか使うわね。」
あばあさんはとってもうれしそうにほほえみしました。



それから数日すうじつがたったある日ひ、ビーバンの元もとに一通いつぽうの
大きな手紙おお てがみがとどきました。
「ぼくに手紙てがみがとどいたぞ！だれからだろう？」
ビーバンはわくわくしながら手紙てがみをひらひらきました。

すると手紙てがみにはこう書かいてありました。

ビーバン こんにちは。
このあいだ ぼくがおつかいのカバンがやぶれてないいたらおばあさんが
“らうらうじ” というカバンをくれました。
おばあさんは「ビーバンにもらったんだよ」と言いっていました。
このカバンがとってもかわいいのでお友だちのおたんじょうびの
プレゼントにしたいです。
ひとつカバンをつくってくれないか。

ビーバンはとびはねてよろこびました。
「なんてうれしいおねがいなんだろう！」
ビーバンはさっそくカバンぶくを作り男おとこの子こに送おくってあげることにしました。

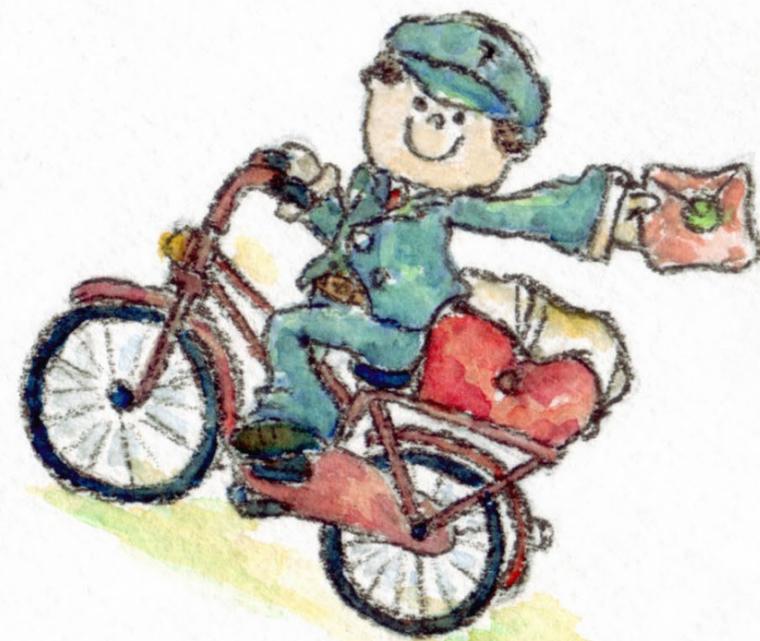
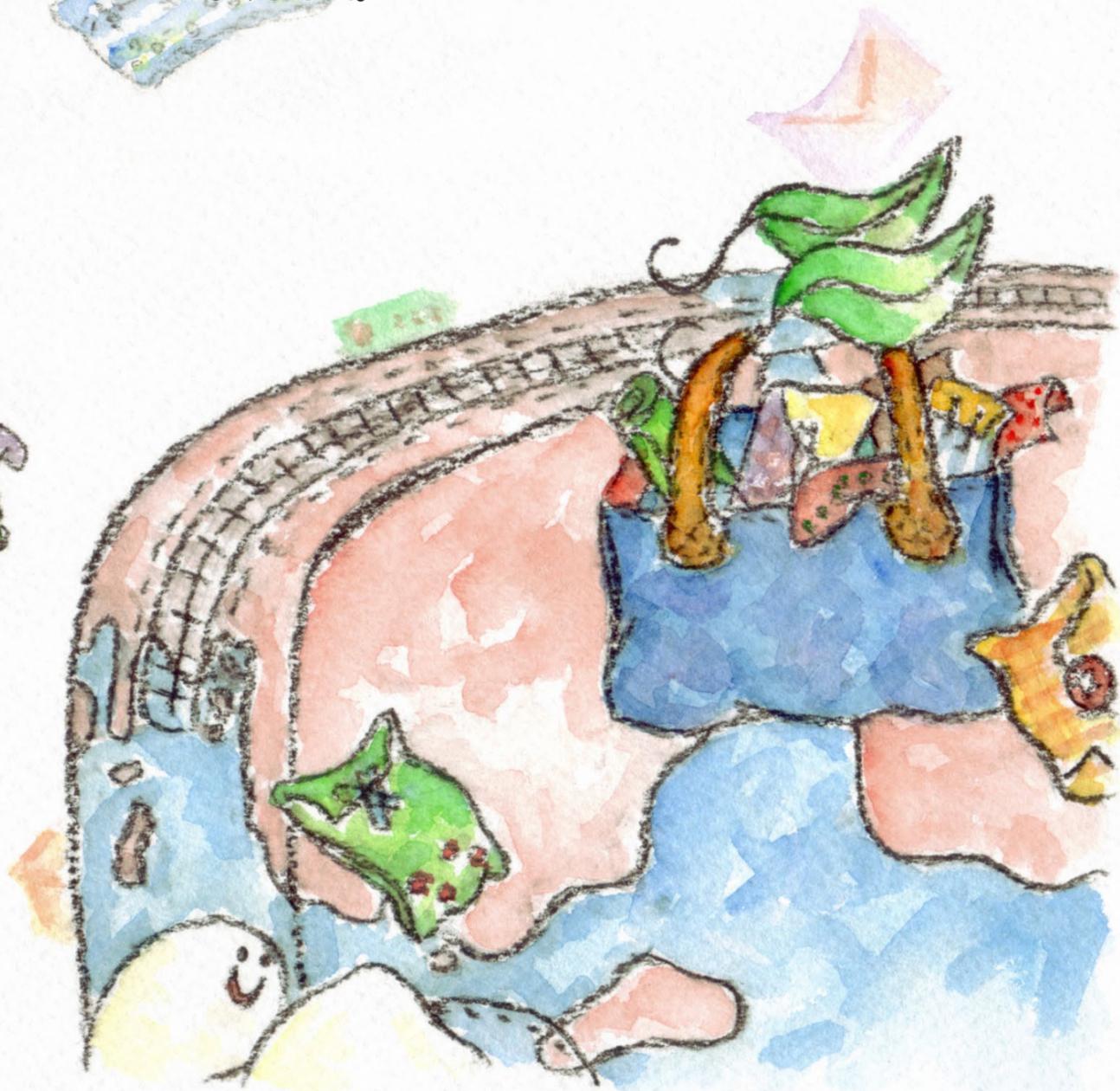


その日をさかいに、人から人へと どんどん どんどん
カバン “らうらうじ” のうわさは広がり、世界中の
人たちから注文の手紙がビーバンにとどくようになり
ました。

毎日ゆうびん屋さんの元気な声といっしょに手紙が
運ばれてきます。

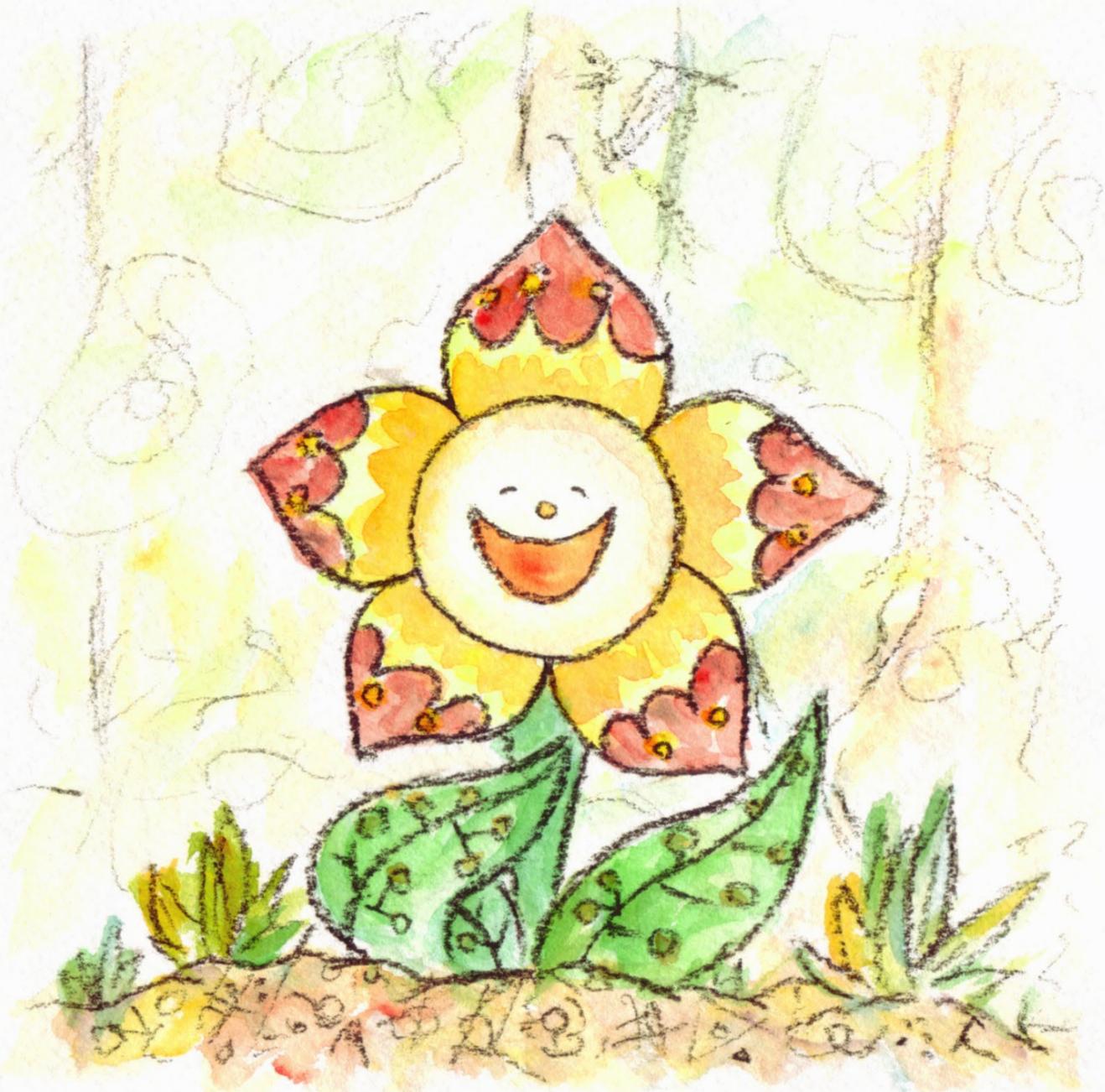
「ビーバン、今日も手紙がとどいているよー！」

あっという間に、ビーバンのまわりは手紙でいっぱい
になりました。

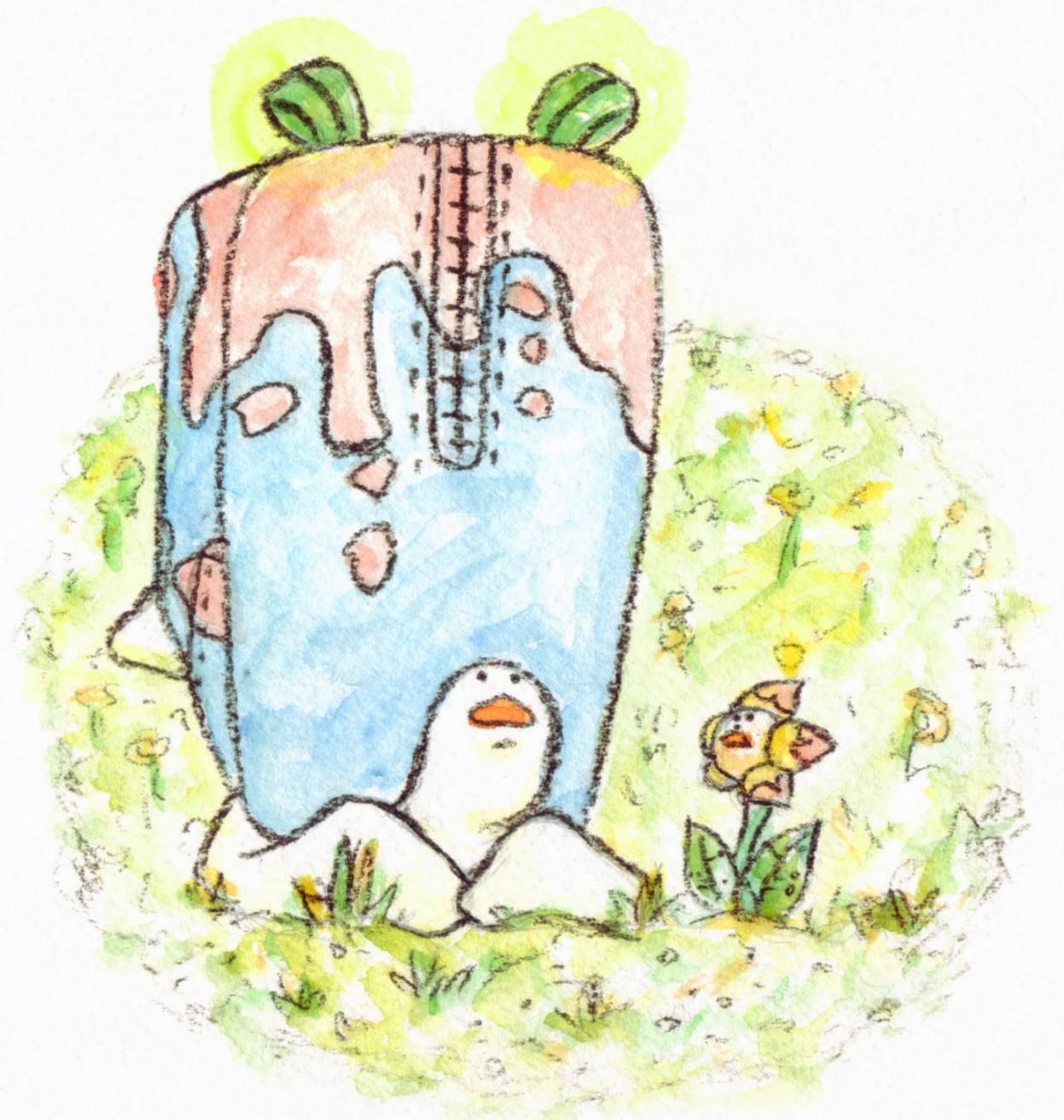


みんなの手紙を読んだビーバンはえがおでいっぱい！
「しぜんのためのカバンをすばらしいと思ってくれる
人がこんなにもたくさんいてくれる！これならすてら
れるペットボトルもなくなり、きっとしぜんにやさしい
地球になるよね。」





いっぱいの手紙を読み終えたビーバンがいつものように大きなさんぽ
をしていると「こんにちは。」と明るく元気な声が聞こえてきました。
ビーバンが声のする方を見るとそこには、いぜんに元気をなくしていた
小さなお花さんが楽しそうにはっぱをユラユラゆらしていました。
ビーバンはお花さんはなにかけより、「さいきんのしぜんたちの様子ようすは
どうだい？」と心配しんぱいそうにたずねました。
するとお花さんはなはえがおいっぱいこたでこう答えました。
「少しずつすこかんきょうもよくなってきていて、みんな前まえよりも元気げんきを
取りもどしているよ！」



「人びとの思いはしっかりとしぜんたちにとどいているんだね。」
ビーバンがほっとひと安心あんしんしたそのとき、せなかのはっぱが
ピカピカピカ。
「たいへんだ！またどこかの星ほしがSOSを出しているぞ！」
ビーバンは急いいそでもつをまとめ出発しゅっぱつのじゅんびを始はじめました。



ビーバンがじゅんびを終えうちゅうせんを出発させ始めたとき、
外からビーバンをよぶたくさんの人たちの声が聞こえてきました。
外をのぞくとそこには、ビーバンの旅立ちを聞きつけたたくさんの
人たちがお見送りをしにかけつけていました。

「ビーバン、地球にすてきなプレゼントをありがとう！」

「元気でね！」

みんなえがおでビーバンに手をふりよびかけます。

そんなみんなのすがたを見て、ビーバンは思いました。

「えがおがこんなにも広がった！きっと地球はもっともっとえがお
になれるよ！これからもみんなで力を合わせてがんばってね！」

そしてビーバンはたくさんのえがおのために、また次の星へと
旅立っていきました。

